

日刊 旅行通信

Wing Travel Daily

発行所 航空新聞社：日刊旅行通信編集部編
 〒107-0052 東京都港区赤坂4-8-6 赤坂余湖ビル3階
 TEL(03)3796-6646 FAX(03)3796-6645
<http://wingnews.net> <mailto:mail@wingnews.net>
 購読料 半年33,600円 年間63,000円(消費税含む)

【トップニュース】

★マレーシア、2013年の新キャンペーンを発表 “街歩き”の魅力紹介、100万人目標の推進力に

来日したマレーシア政府観光局本局のチョン・ヨク・ハー副局長が本紙インタビューに応じ、日本人のさらなる誘致拡大に向けてプロモーション活動を大幅に強化する考えを示した。今年から新たに、街歩きの魅力を訴求する「ジャラン・ジャラン・マレーシア」キャンペーンの展開をはじめると、航空会社にはペナン島への直行便など新規路線の開設を働きかける。2014年の「マレーシア訪問年」を契機に、日本市場を一気に拡大させたい考えだ。

同観光局は日本旅行業協会(JATA)とともに、日本人マレーシア訪問者数を年間100万人にする「マレーシア100万人プロジェクト」を2012年4月に策定、今年から3年間にわたり各種プロジェクトを展開する。

2012年のマレーシアへの日本人訪問客数は、同観光局がマレーシア独立55周年にちなんで展開した「Go!Go!マレーシア」キャンペーンなどが効果を挙げ、前年比21.5%増の47万人を記録。日本全国のタクシーに広告を掲載するなど、消費者のマレーシアへの関心を高めた。

ハー副局長はこの勢いをさらに強めることで、「今年は年間60~65万人に拡大させたい」考えを強調、昨年からさらに2割以上のアップをめざす考えを示した。

その中核となるのが、今年新たに展開する「ジャラン・ジャラン・マレーシアキャンペーン」。マレーシアで体験する「街歩き」にスポットを当て、新たな魅力を提案する。

具体的には、ウェブやソーシャルメディア上で「かなりヘビーに」(ハー副局長) 広告展開を図る方針。また、四半期ごとに日本人旅行者に何らかのギフトを用意し、マレーシアに渡航した際の“サプライズ”として進呈する。

ターゲットには引き続き、20~40代の女性層、近年活発な動きを見せるアクティブシニア、高校生・大学生、MICE、ファミリーを据える。このほかSIT商品の造成にも取り組む。

DESTINATIONとしてはペナン、マラッカ、イポーのほか、近年発展著しく、レゴランドのほか、大型商用施設の建設プロジェクトが進んでいるジョホールなどに光を当て、プロモーションする。

ペナンはすでに、“東洋の真珠”として有名なビーチリゾートだが、今回は世界遺産のジョージタウンをはじめとした街歩みの様子をプッシュしていく。

ハー副局長は、新DESTINATIONや、旧知のDESTINATIONの中にある新たな魅力を提案することで、「10年前にマレーシアを訪問した旅行者にも、満足してもらえるようにしたい」と語った。

政観によれば、今年第1四半期の日本人客数も2桁の成長を示した。ハー副局長は、「(2014年まで100万人という目標達成に向け) 勇気を持てる良い実績を残せている」と語り、2014年には「最低でも80万人」に拡大させ、100万人の目標達成をめざす考えを示した。



チョン・ヨク・ハー・マレーシア政観副局長(左)、ノール・アズラン政観東京支局長(右)

ペナン直行便就航要請、地方チャーター誘致も

現在日本からペナンへは直行便がないが、ハー副局長は、日本マレーシア路線に乗り入れるエアラインに、政観の立場から「直行便の就航を打診しているところ」と語り、ペナンへのアクセスの確保に期待を示した。

またペナン線のみではなく、日マレーシア間の座席供給量の拡大にも取り組みたい、とハー副局長は語り、JATA加盟企業などと協力し、福岡や中部など、地方都市からマレーシアへのチャーター便の誘致に積極的に取り組んでいく方針を示した。

ハー副局長によれば、現在の日マレーシア路線の運航便数は週38便、提供座席数は1万1171席。今後2年のうちには、今年運用開始になるLCC専用エアポート、新クアラルンプール空港から、新興LCCのマリンド・エアウェイズが日本に就航する話も浮上しており、日マレーシア間のアクセスはさらに拡大する見通しとなっている。

また、地方からのアクセスについては、マレーシア航空がワンワールドアライアンスに加盟したことで、日本航空(JAL)の地方運航便からの接続が改善している。

マレーシアでは現在、2020年までに先進国入りを目指す“経済変革プログラム”に添い、インフラ整備を進めているが、この中で重要なファクターのひとつとして政府が位置づけているのが空路の拡大になる。ハー副局長は今後も、日本を含む渡航時間6~8時間圏内の中距離DESTINATIONからの路線開設を働きかけていきたいと語った。

2020年に先進国入り、観光客3600万人時代へ 日本をシェア5%に、高単価商品造成にも期待

この“経済変革プログラム”では、国家重点分野として12分野を設定しており、観光もその1つとして位置づけられている。政府では、2020年までに世界からの観光客数を、現在の

2500万人から3600万人に、また外貨収入を現在の3倍にまで拡大させるという目標を打ち立てている。

ハ一副局長は日本市場について「政観として設定している5つの主要市場のひとつ」と語り、将来的に3600万人時代を迎える上で、「(日本には)最低でも5%のシェアをとってもらいたい」と述べた。

また、外貨収入の拡大について、ハ一副局長は、現在の日本人の消費単価について「常に平均の少し上を維持している」と語り、今後単価の高い高品質なツアーの造成が進むことを期待する、と語った。

変革プログラムに沿い、現在マレーシアでは、空路の拡大のほか、首都圏全域へのMRT(大量輸送システム)の導入、またシンガポールからクアラルンプール、ジョホールへの鉄道の整備など、急速にインフラ整備が進められている。

さらに景観の美化のため、クアラルンプール市内を流れるクラン川の水質浄化と整備を行うほか、歩行者専用歩道デッキの整備などにも取り組む。

徳永誠同政観東京支局マーケティングマネージャーは、同日の業界向けセミナーで「あと7年でマレーシアは一大変貌を遂げる」と語り、GW開けに予定している業界向けファムツアーを通じ「多くのことを見てきてもらいたい」と語った。

■政観日本事務所、開設40周年 ロングステイ希望国、7年連続1位

マレーシア政府観光局は今年、日本事務所の開設40周年を迎える。セミナーではノール・アズラン同政観東京支局長と、徳永東京支局マーケティングマネージャーが、来場の旅行者らに対しそれぞれ感謝の意を表した。

同政観は1972年にマレーシア観光開発公社として設立、翌年1973年に初の海外オフィスとして東京に事務所を構えた。その後、幾度もプロモーションキャンペーンを展開し、現在の日本でのマレーシアのブランドイメージを築き上げてきた。

ロングステイ財団が毎年公表している、ロングステイ希望国調査の2012年度(2012年4月1日～2013年3月31日)版では、マレーシアが7年連続で首位を獲得。長期滞在先として、依然根強い人気を示している。

【旅行関連】

★JTBグループ2月実績、海外取扱額は前年並み確保 取扱人員は中韓影響でマイナス、国内は3.1%増

JTBグループ24社合計の2月営業実績は、海外旅行が前年同月比0.6%増の427億3800万円、国内旅行が同3.1%増の621億1700万円、国際旅行が同19.6%増の20億7900万円となり、TRSその他をあわせた総取扱額は同2.0%増の1113億8400万円だった。

2月の海外旅行のうち、一般団体の「企業」が同7.1%増と好調に推移、「組織」(0.6%減)と教育団体(4.9%減)はマイナスだったが、海外団体の取扱額合計では同0.7%増とプラスを確保した。

海外企画商品は、ルックJTB・JTBお買得旅が同0.6%増と前年並みを維持し、メディア企画商品は同10.2%増と二桁増を確保した。企画商品の取扱額合計は同0.9%増。このほか、FITの取扱額は同13.0%減だった。

JTBグループ全体の2月海外旅行取扱人員は同11.8%減。方面別取扱人員では、ハワイ(26.4%増)、欧州・ロシア(14.5%

%増)、北米(7.5%増)などが好調だった。中国や韓国の減少が響きアジアは同27.6%減。

海外企画商品のルックJTB・JTBお買得旅の取扱人員は前年同月比7.8%減。方面別ではハワイ(24.2%増)、アメリカ(23.8%増)、ヨーロッパ(18.4%増)が好調だったが、アジアは29.0%減と大きなマイナス。昨年4月からの累計取扱人員は、前年同期より8.5%増で推移している。

2月の国内旅行は、団体部門の取扱額合計が前年同月比10.6%増と好調に推移、「企業」(20.8%増)と「組織」(18.1%増)の取扱いが好調だった。教育団体は同4.5%減。

国内企画商品は、エースJTBが同5.2%増とプラスを確保。企画商品の取扱額合計は同0.5%増だった。エースJTBの2月取扱人員は、全方面合計で同4.3%増。方面別では中部(69.6%増)、九州(8.6%増)、中国・四国(4.4%増)が好調だった。

なお、JTBグループ24社の2012年度(2012年4月～2013年2月)累計取扱額実績は、海外旅行が前年同期比11.4%増の5241億5400万円、国内旅行が同6.2%増の8416億4200万円、国際旅行が同53.2%増の307億2200万円となり、TRSその他を含め総取扱額は同7.8%増の1兆4532億9400万円となった。

★学校休業日設定し連休化、全国90校・園で実施 「家族の時間づくりプロジェクト」9地域認定

観光庁は、休暇取得促進のための「家族の時間づくり」プロジェクトで、2013年度は4月15日時点で全国9地域を認定した。今年度は、2年以上連続で実施しているとくに意欲的な模範地域を、「リーディング地域」として4地域認定した。

認定9地域における実施校数は、合計90校・園、対象となる生徒・児童数は、合計約2万4853人。なお、認定地域の募集は随時行っている。

2013年度の実施地域一覧は以下の通り。リーディング地域は、●の4地域。

▼北海道登別市=2月10日を学校休業日として4連休を設定(2月8日～2月11日)、緑陽中学校、西陵中学校で実施予定(計576名)

▼岩手県平泉町=5月7日を学校休業日として5連休を設定(5月3日～7日)、長島小学校で実施予定(86名)

▼千葉県いすみ市=9月24日を学校休業日として4連休を設定(9月21日～9月24日)、大原小学校、東海小学校、東小学校、浪花小学校、大原中学校で実施予定(計1234名)

▼静岡県静岡市=11月1日を休日として4連休を設定(11月1日～11月4日)、西奈小学校、森下小学校で実施予定(計1092名)

●静岡県島田市=10月11日を学校休業日として4連休を設定(10月11日～10月14日)、市内全小中学校(25校)、全幼稚園(9園)で実施予定(計約9600名)

●静岡県川根本町=10月11日を学校休業日として4連休を設定(10月11日～10月14日)、町立の全小学校(4校)、全中学校(2校)、私立幼稚園(1園)で実施予定(計450名)

●三重県龜山市=5月2日を学校休業日として5連休を設定(5月2日～5月6日)、市内幼稚園(6園)、小学校(11校)、中学校(3校)で実施予定(計4600名)

●京都府京都市=9月21日～10月22日の期間中に秋休みとして4連休以上を設定、市内小学校10校で実施(計4300名)

▼熊本県人吉市=10月9日を学校休業日とし、10月12日～10月14日の3連休と組み合わせて実施予定、市内全小学校(6校)、中学校(3校)で実施予定(計2915名)

★観光関係功労者大臣表彰、今年は25名を表彰 旅行業関係は4名、TCSAの三橋専務理事など

平成25年(2013年)の観光関係功労者の大臣表彰が発表された。観光関係事業に多年精励し、功績が顕著な功労者が国土交通大臣から表彰されるもの。今年の受賞者は、ホテル業関係が10名、旅館業関係10名、旅行業関係4名、観光レストラン業関係1名の計25名。

授賞式は、来たる4月24日、国土交通省共用大会議室で行われる。

受賞者名は以下の通り。カッコ内は年齢。

【ホテル業(経営者)】

▼日本ホテル協会沖縄支部理事・宮平観光代表取締役社長 宮平康弘(66)

【ホテル業(従事者)】

▼富士屋ホテル洋食料理課料理長 工藤正博(61)

▼ホテルグランパシフィック取締役料飲部総調理長 矢部喜美夫(60)

▼京王プラザホテル調理部 福田弘司(60)

▼帝国ホテル宿泊部接客課 安田正敏(61)

▼プリンスホテル グランドプリンスホテル高輪 鈴木忠男(65)

▼京都ホテル調理部 正木良知(60)

▼ロイヤルホテルリーガロイヤルホテル調理部宴会料理長 織田勝弘(59)

▼阪急阪神ホテルズ 千里阪急ホテル料飲部調理長 松井裕嗣(57)

▼倉敷国際ホテル調理部部長 星川淳(56)

【旅館業(経営者)】

▼元国際観光旅館連盟常務理事・龍名館代表取締役会長 濱田章男(63)

▼八木代表取締役社長 八木眞一郎(64)

▼杖立観光ホテルひぜんや代表取締役 河津恭子(80)

【旅館業(女将)】

▼対滝閣専務取締役(女将) 大澤幸子(66)

▼滝の湯ホテル取締役副社長(女将) 山口隆子(69)

▼富士野屋別館代表取締役(女将) 河野暢子(76)

▼いさご取締役(女将) 砂金美津子(77)

▼大根屋(宮島グランドホテル有もと)専務取締役(女将) 有本妙子(68)

▼雲仙宮崎旅館副社長(女将) 宮崎美雅子(73)

【旅館業(従事者)】

▼ホテル黒部調理長 坂東力(79)

【旅行業(経営者)】

▼全国旅行業協会青森県支部支部長・青森第一旅行代表取締役社長 折館公彌(78)

▼日本添乗サービス協会専務理事・TEI代表取締役会長 三橋滋子(76)

【旅行業(添乗員)】

▼ジャッツ添乗員 加藤幸子(58)

▼エステーエス添乗員 平井隆司(62)

【観光レストラン業(経営者)】

▼国際観光日本レストラン協会副会長・大安商事代表取締役 安田眞一(65)

★日旅、グラミン銀行でマイクロクレジット学ぼうツアー

日本旅行は、ダイヤモンド・ビッグ社発行の「地球の歩き方海外ボランティア 夏休み特集号」で、マイクロクレジットの開拓者であるバングラディッシュのグラミン銀行で、貧困層への

経済的支援活動を学ぶツアーを企画した。

マイクロクレジットとは、失業者や資金のない企業家、貧困層を対象とした少額融資で、基本的に無担保で融資するもの。ツアーでは、グラミン銀行本部でスタッフから直接、マイクロクレジットのシステムを学ぶほか、実際に同銀行が融資している企業やスラム街の学校を訪問し、融資の現場を学ぶ。また、グループワークや現地スタッフを交えてのプレゼンテーションなども実施する。

出発日は、9月1日、8日、17日、24日の4出発日を設定。6日間の行程で、旅行代金は17万9000円(一人部屋追加代金2万6800円)。最少催行人員は各出発日10名。4月20日よりインターネットおよび電話予約の受付を開始する。

【航空関連】

★ソラシド6月に神戸-那覇線、関西市場参入 地方間路線が有望市場、国際展開も視野に

ソラシドエア(スカイネットアジア航空)の高橋洋社長は記者会見で、同社の事業戦略について、九州-東京路線の充実だけでなく、那覇-九州路線をはじめ首都圏以外のネットワークを拡大することを明らかにし、その一環として「今年6月には神戸-那覇(3往復6便/日)を結び、関西圏へネットワークを進出する」ことを改めて強調した。

高橋社長は「国内のネットワークをもう少し充実させたい。神戸で実績を上げて、関西のビジネス・マーケットにも入っていききたい」と述べた。

また、主軸としてきた羽田空港の今後の増枠は国際線に振り分けられる見通しにあることから、国内の地方-地方間における有望市場を模索していきたい考えを明かした。

国際線、東アジア視野にまずはチャーター 4時間圏内で有望マーケット絞り込みへ

ソラシドエアの中期経営計画では、3カ年の間に国際線チャーター便への参入が明記されている。過去の負債を払拭し、運航品質が大手にも引けを取らない実績を積み重ねているだけに、実績・自信とも付いてきた証だ。

「幸いにして我々は九州が拠点。保有機材が運航可能な2000-3000キロメートルの範囲にも、有望なマーケットがある」との認識を示しつつ、「地元の自治体・経済界からも強い要望が来ているため、確実に実施していく」ことを強調した。

具体的な路線などは明らかにはされていないが、「台湾、香港、中国、韓国など東アジア。一カ所に最初から絞るのではなく、(チャーター便で)色々な地点に運航しながら、絞り込みをしていきたい。出発地も宮崎はもちろん、熊本、大分などからも強い要望が来ているので、可能性があるところを絞り込む」と話しており、2-3年の間におおよそ4時間圏内で運航可能なマーケットを模索する。

定期便化については「2-3年でチャーター便は確実に運航するが、結果次第で上手くいけば定期便化する。ただ、まだそこまでの確信は持っていない」とコメントするに留めた。なお、ETOPSを取得する予定は今のところないとのことだ。

売上300億円超、最終利益も10億超えか 過去最高業績を更新見込む、新中期で成長描く

高橋社長は2013年度の業績見通しについて、「今期の売上

高は305-306億円を見込む。最終利益は10億円以上は何とか確保することが期待できるのではないかと見通しを示し、業績が堅調に推移していることを明らかにした。かつては産業再生機構による支援を受けるなど、厳しい経営を強いられたスカイネットアジア航空。一昨年7月に新ブランド“ソラシドエア”をスタートし、737-800型に機材更新を図るなど、大胆な戦略とコスト削減によって現在5期連続で黒字を確保することに成功。今期も過去最高の売上と利益確保は、ほぼ間違いのない状態だ。

就航11年目を迎えて旅客数1000万人を突破するなど上り調子な状況にある同社を取り巻く環境は決して甘くはない。円安によってドル建てコストが膨らむ傾向にあるほか、日本航空(JAL)の復活・攻勢、格安航空(LCC)の登場など、競争環境が一層激しくなっている。

既報の通り、今年1月に策定した2013-2015年度の中期経営計画のなかで、韓国、香港・中国などへの国際線チャーター便への進出も視野に入れているほか、低コスト化の推進や独自の地域戦略でローカル・エアラインとして、更なる成長を目指す。

今期で累積解消、成長描く新時代に JAL攻勢やLCC台頭など懸念材料も

ソラシドエアは、業績好調なことを背景として一時は最大で80億円を超える累積損失を今期で完全に消すことができる見通し。「これまでの10年は再建の10年。ようやくスタートラインに戻って、これから厳しい航空業界において、ローカルエアラインとして成長のシナリオを描く」(高橋社長)としている。

累積損失の解消などによって、成長への大きな一歩を踏み出すことになったとはいえ、懸念材料も散見される。もっとも大きな懸念の一つが、JALの攻勢だ。高橋社長によれば、「JALは価格面では団体客を中心にかなり仕掛けて来ているようだ」との見解を示して、激しい価格競争に巻き込まれている模様だ。「品質を含めたコスト・パフォーマンスで対抗するしかない。当面、我々にとって厳しいことは、LCCよりもJALの攻勢だ」と、復活を果たしたJALへの警戒感を強めた。

また、LCCであるジェットスター・ジャパンが、ソラシドエアの本拠である九州に乗り込んできたことも気がかりな材料。ソラシドエアは羽田路線だが、“東京線”という括りでは、成田-大分/鹿児島が競合路線となった。今のところ「まだ10日間くらいなのでよく分からないが、LCCは時間帯が良くない割には予約が入っているようだ」との認識を示した。ただ、「我々の4-5月の予約状況を見ると、予約が減っている訳ではない」としている。

今のところ競合の影響は不透明だが、スカイマークらが他社がLCCとの競合によってシェアを落とすつつあることもあって、ソラシドエアとしても気がかりなところ。ソラシドエアが就航する九州の空港は、いわゆる幹線に次いで大きなマーケット。この魅力的な路線をLCCが見逃すとは思えないこともあって、今後LCCがフリートを拡大して路線便数を手厚くすれば、競争は避けられそうにない。

高橋社長は「如何にユニットコストを下げておくかが鍵だ。(競争環境においても)価格を下げて耐えられるコスト構造にしておくことが、我々の対抗策だ」と話した。

ソラシドエアでは、中期経営計画のなかで、売上高営業利益率を8-10%に持って行く計画にあるほか、ユニット・レベニューを8.54円に、そしてユニット・コストは7.84円と、7円

台にしたい考えを示した。

【ソラシドエアの中期経営計画】

▼2013年度=売上高：334億円、営業利益：17億円、営業利益率：5.20%、当期利益：7億円、ユニットコスト：8.1円、提供座席キロ(12年度比)：39億2400万座席キロ(22%増)

▼2014年度=売上高：348億円、営業利益：24億円、営業利益率：7.00%、当期利益：8億円、ユニットコスト：7.9円、提供座席キロ(12年度比)：41億1700万座席キロ(28%増)

▼2015年度=売上高：352億円、営業利益：28億円、営業利益率：8.20%、当期利益：17億円、ユニットコスト：7.8円、提供座席キロ(12年度比)：41億2800万座席キロ(28%増)

★787型機、日系キャリアは6月商業運航再開見通し 米FAA長官、是正措置をまもなく正式認可

ボーイングの新鋭機787型機は現在バッテリー・トラブルによって1月16日以降、運航停止措置が講じられているが、日系キャリア(全日空・日本航空)2社が、6月1日からの運航再開に向けて調整していることが関係者の話で分かった。一部報道によれば、4月16日(米現地時間)に米連邦航空局(FAA)のフェルタ長官が、ボーイングが提出したバッテリー改善策をまもなく正式に認可すると米上院の公聴会でコメント。およそ3カ月に亘り運航停止を余儀なくされた787型機が、“ドリームライナー”として再び運航を再開する日が、いよいよ近づいてきた。

ボーイングが米連邦航空局(FAA)に提出したバッテリー問題は是正措置について、各種の試験が実施され、そのデータ審査がFAAにおいて実施中だが、早ければ米国時間で今週金曜日にも認可される可能性が浮上している。

ボーイングでは世界で最も787型機を保有している日系キャリアへの対応として、近く認可される見通しにある是正措置をいち早く講じるべく、最大で200人規模の作業チームを日本に派遣。その一部は既に日本に到着している模様だ。作業に当たる際には、3直交代で24時間体制のシフトを敷いて問題の改善にあたるようだ。

日系キャリアが商業運航の再開に漕ぎ着けるためには、FAAの認可および耐空性改善命令(AD)の解除、日本の航空局による耐空性改善通報の解除が必要となる。

加えて、運航するエアライン側にとって気に掛かるのが、安全性に疑問を抱いてしまった一般消費者における負のイメージを払拭しなければならないことだ。そのため、エアラインはおよそ1カ月の期間をかけて、飛行試験等を実施する。さらに、しばらく787型機の運航から離れなければならなかった運航乗務員らの訓練期間に充てていく模様だ。

★SWR、13年第1四半期の搭乗率1.8ポ増、79.6%

スイス国際航空(SWR)2013年第1四半期(1-3月)の全体の輸送旅客数は361万298人で、前年並みに推移した。総運航便数は前年同期比4.5%減の3万5722便、有効座席キロは2.1%増、有償旅客キロは4.5%増を記録し、座席利用率は1.8ポイント増の79.6%に改善した。

欧州路線の有効座席キロ数は4.3%増、有償旅客キロ数は1.1%減だった。大陸間路線の有効座席キロは5.5%増、有償旅客キロ数は4.5%増だった。

【デスティネーション】

★シカゴ観光局とUAL、メディアセミナーを共催
日本向けプロモーション強化、来年POWWOW開催

シカゴ観光局とユナイテッド航空(UAL)は4月16日、都内でメディア向けセミナーを共催し、シカゴ観光の最新情報とUALのプロダクトについて紹介した。シカゴ観光局のマジョリー・デューイ日本代表(写真)は、2011年に就任した新市長が打ち出した観光振興強化方針に添い、シカゴ観光局は日本を含む世界9事務所を構え、プロモーションの強化に取り組んでいることを強調。また、シカゴの魅力について建築物、食、ショッピング、アクセスの良さなどの切り口から紹介した。



このうちアクセスの良さについてデューイ氏は、オヘア空港とミッドウェー空港の2つのハブ空港を有していることをもとに説明。ミッドウェー空港は国内線が充実した空港で、ほとんどの米都市に3時間以内で到着できることから「MICEに使いやすい」(デューイ氏)とした。市内には、世界最大のコンベンションセンターであるマコーミック・プレイスもある。

また、シカゴは観光地としても注目が高まっており、ロンリープラネット誌の調査では、2012年の人気観光地トップ10にもランクインしている。年間4000万人強の観光客が訪れるシカゴだが、2014年の米トラベルトレードショー「インターナショナルPOWWOW(パウワウ)」の開催地にも決定しており、今後も引き続き観光面での注目を集めそうだ。

UA成田線、ANAとJVでスケジュール組みやすく
ラウンジ・エコノミープラス・WiFi等サービス充実

オヘア空港はUALの国際・国内線のハブ空港。UALの永田浩二アジア・太平洋地区広報統括本部長は、成田ーシカゴ線について、UALと共同事業(JV)パートナーの全日空(ANA)がそれぞれデイリー便を運航しており、柔軟にスケジュールを組むことができ利便性が高いことを紹介した。

永田氏によると、オヘア空港では新コンセプトに刷新したラウンジがオープン。UALのラウンジはエコノミークラス利用者も50米ドルで購入可能な1日パスを購入すれば利用できるという。

永田氏はUAL成田ーシカゴ線のプロダクトについて、ANA便と自由に組み合わせる柔軟にスケジュールを組むことができることや、投入機材であるボーイング777型機に搭載しているエコノミープラスおよび現在B777型機を含め各機材に搭載を進めているサテライトWiFiなどを紹介した。

成田発便の場合、ANAのNH012便は成田10時45分発→シカゴ8時20分着、UALのUA882便は成田16時30分発→シカゴ14時20分着というスケジュール。一方シカゴ発便の場合、ANAのNH011便はシカゴ10時50分発→成田(翌日)13時45分着、UALのUA881便はシカゴ13時00分発→成田(翌日)16時10分着というスケジュールになる。

現在UALでは、同路線をB777型機で運航している。座席クラスはファースト、ビジネス、エコノミープラス、エコノミーの4クラス。このうちエコノミープラスはエコノミーより13センチ足回りが広く、より快適に移動時間を過ごすことができる。

エコノミープラスは、プレミアム会員であれば無料で座席指定することが可能で、路線や距離によって違うが、エコノミークラス利用者でも120~160米ドルの追加料金を支払えば利用できる。

また現在同航空では、保有機材に衛星利用のWiFiの搭載を進めている。今年末までには300機を超える機材に搭載完了する

予定で、全777型機機には2014年初頭まで搭載が完了する予定となっている。

このWiFiは衛星利用のため、海上でも不自由なくインターネットに接続することができる。利用料金は路線、距離などに応じて一定ではないものの、国際線はスタンダードが14.99米ドル、スタンダードより3倍高速のオプションが19.99米ドルとリーズナブルに設定されている。

★海外ロングステイ先、アジアの人気高まり
ロングステイ財団が12年度調査、英語圏も人気

ロングステイ財団が実施した消費者アンケートによると、海外ロングステイ先人気ランキングの1位はマレーシアが挙げられ、7年連続で同調査のトップを獲得した。2位はタイ、3位はハワイで前回調査と同じ順位。上位15デスティネーションのうち、ベトナムとイギリスが前回圏外からランクインした。

同調査は、昨年4月から今年3月までにロングステイ財団が主催・後援したイベントやセミナーの参加者を対象にアンケート調査したもの。2012年度は3235件の有効回答をまとめた。

ここ数年の調査で人気の高まりを見せているのがアジアで、7位のフィリピンや8位のシンガポールがじわじわと順位を上げている。また、語学留学熱の高まりなどでニュージーランドも今回5位と再び順位を上げた。

2012年度のロングステイ希望国ベスト15ランキングは以下の通り(カッコ内は投票獲得数/2011年度順位)。

- ▼1位=マレーシア(2047件/1位)
- ▼2位=タイ(1177件/2位)
- ▼3位=ハワイ(936件/3位)
- ▼4位=オーストラリア(754件/4位)
- ▼5位=ニュージーランド(544件/6位)
- ▼6位=カナダ(473件/5位)
- ▼7位=フィリピン(435件/8位)
- ▼8位=シンガポール(374件/10位)
- ▼9位=インドネシア(347件/7位)
- ▼10位=台湾(299件/9位)
- ▼11位=ベトナム(278件/圏外)
- ▼12位=アメリカ本土(260件/12位)
- ▼13位=スペイン(225件/11位)
- ▼14位=イタリア(195件/14位)
- ▼15位=イギリス(190件/圏外)

【ホテル】

★ヒルトン、アジア太平洋地域のMICE利用促進

ヒルトン・ワールドワイドは、アジア太平洋地域のグループホテルのイベント・会議利用促進のため、「もっと予約、もっとお得」キャンペーンを実施している。地域内にある約100ヶ所の対象ホテルでイベント・会議を予約すると、様々な特典を獲得できる。6月30日まで実施する。

イベントに伴う宿泊部屋数が20室以上の予約が対象で、6点の特典の中から、好きな特典を2点~選ぶ。予約部屋数に応じ選択可能点数が増える。

特典として設定しているのは、(1)有料参加者全員にウェルカムカクテル無料サービス、(2)有料合計宿泊数40泊につき1泊分無料、(3)1ランク上の客室区分への無料アップグレード2回分およびエグゼクティブフロア利用、(4)利用会議室での無料インターネット、(5)ミーティングパッケージ15%割引、(6)週末無料宿泊2名分・朝食付き、という6点。

上記の中から、予約した宿泊数が20~49の場合2点、50~79の場合3点、80~109の場合4点、110~159の場合5点、160以上で全点を選択できる。